

木材加工

(timber processing)

建築科：権守椋太郎 今牧竜叶 佐野匠汰 古屋裕斗 相澤柊斗 相田紫雲

概要や目的など

私たち木材加工班の目的は、木材の加工を通して建築に対する理解を深めると共に、木材の性質と特徴をふまえた上で、形の残るものとして実用性のある作品を製作することだ。

その中でこの課題研究を通して今、甲府工業に必要とされている作品を製作することを最終的な目的として、活動した。

1. はじめに

この研究は木材加工を通して現代の木造住宅や木造の人工物に対する理解を深め、実際に加工などをすることにより、経験として木材に対する考えをさらに深いものにするのが大切になると考えられる。

現在の日本では二酸化炭素発生を抑えるために木材の使用が推進されている。木材を多く使うことにより、森林の循環が良くなり光合成によるCO2削減に効果的となっている。

そういった背景からも木材に興味関心を持つことはとても有意義だと考える。

2. 研究内容

私たちの研究は木材を加工して、作品を作り上げるため自分たちで考え、思考し、作成する。

そういった基本的な工作作業に加えて、木材加工でこの甲府工業のために何かできるのではないか。そのためにはどういったものを作るべきか。

そのような考えを課題研究を使い、作成する。同時に木材への理解を深め、将来の木材加工技術に関心を持つべく活動していく。

3. 取組状況

まず、課題に対する理解と目標を達成するために、このような順序で取り組みをしていく。

・アンケートボックスの設置 ⇒ 製作物の決定
⇒ 材料の買い出し ⇒ 木材加工 ⇒ 塗装仕上げ ⇒ 製作物の設置……完成！

案を出したとしても、実際に加工をすることによって、大変な点や課題が多く見えてきた。



4. 成果

今回の研究を通して、建築科職員室の机や体育館1階の下足棚、キャスター付き本棚を作成した。

実際に加工するにあたり、デザイン性や耐久性、材料のコストなどの問題点が多く出てきた。

また、加工に関しても、木材の収縮などが問題で寸法通りに加工できなかつたりと思いつりにならない場面があった。

そのため、仲間との話し合いを進めたり加工方法の変更やビスケット接合、ダボ接合などの方法を使うことにより解決した。

このような作業をしていく上で仲間と協力し合い、計画的に進めることにより完成することができた。



5. 考察

現在、私たちの日常の中で多く使われている木材だが、鋸や鑿での加工ができ、自由度が高い反面、しっかりと対策をしないと木材が腐り、耐久度がなくなる、耐火性がない、含水率により変形してしまうなどの問題点がある。

しかし、木材を使うことにより、木材特有の温かみのある作品に仕上げられる点や様々な加工方法のある点など良いところも多く見つけることができた。

当初の目的の1つであった木材に触れることにより、木材加工の奥深さや楽しさの理解を深められた。

これからの生活の中で少しでも木材加工に対して興味を持ってもらえるとうれしく感じる。

6. おわりに

これからの社会でも木材を使用した建物や工作物とは触れ合う機会が多くあると思う。

その中で木材加工の大変さや細かな工夫を感じ取ることにより、私たちの日常生活の1コマに驚きや感動もあるかと考える。

この課題研究の経験を社会に出た際など、次に繋げていきたい。